シューズ購入の際は、必ず試し履きをしてください

シューズは同じサイズ表示でも、大きさやフィット感は異なります。また、人の足は長さだけではなく、幅や高さなど様々な特徴があります。シューズをお選びの際は、必ず試し履きをして、ご自分の足にフィットしたものをお選びください。

試し履きをする時は！

○足は左右全く同じ形状ではありません。そのために、必ず両足の試し履きをしてください。
○実際に使用するソックスで、試し履きをしてください。
○靴ひもをすべての穴に通し、かかとをシューズに合わせ、靴ひもを適度に締めてからしっかりと結んでください。
○店内を少し歩いてみましょう。
○朝より夕方の方が足が大きいのが一般的です。試し履きは夕方にする方が良いでしょう。

シューズ選びのポイント！

○立った状態で、つま先に適度なゆとりがあること。
○かかとがフィットしていること。
○親指、小指、踏みつけ部、甲まわりに圧迫感がないこと。
○履き口が、くるぶしやアキレス腱に当たらないこと。
○足を測定してくれるショップもあります。自分の足の特徴を知ることで、シューズ選びの参考にすることができます。

●足に合わないシューズは、転倒や健康を損なう原因となります。
●結んだ靴ひもが余り長すぎると、踏みつけて転倒する恐れがあります。

シューズは時間の経過で自然に劣化します

シューズは半耐久消費財です。使用すれば消耗し、時間が経てば自然に劣化します。長期間保管されていたシューズは劣化している可能性があります。使用する前に底はがれや素材が劣化していないかお確かめください。
＜使用したシューズの寿命＞
使用頻度、運動量、体格、手入れ等で異なります。

シューズの自然劣化とは！

○シューズの素材や接着剤に幅広く使用されているポリウレタンは、時間の経過とともに劣化が進行します。
○素材の変質により、ソールのはがれや表面のひび割れなどが発生する事があります。
○一般的に製造後５年程度が寿命とされていますが、劣化の進行は、温度や湿度など、シューズの置かれている環境により大きく変わります。そのため、ご使用いただける期間も異なり、耐用年数を予測することはできません。
○アンモニアや薬品等に触れるとポリウレタンの劣化が促進されます。
○自然劣化は、未使用品であっても進行します。

長くお使いいただくために！

○温度・湿度が高く、通気が悪いところでの保管は、より劣化が促進されます。できるだけ通気が良く、高温多湿を避けて保管してください。
○やむを得ず長期間保管する場合は、時々陰干しなどを行ってください。雨や雪の日などに使用し、濡れたままの状態で保管しますと劣化が促進されますので、十分乾燥させてから保管してください。

●車のトランクや屋外の物置など、高温になりやすいところでの保管は、短期間でもシューズの変形や底はがれを招きますのでおやめください。
●ヘアードライヤーやストーブの前など火気の付近での乾燥は、シューズの変形や変質を招くだけでなく、やけどや火災の原因になりますので絶対におやめください。

シューズを履く（脱ぐ）時のご注意

シューズの保護機能でもっとも重要な役割を果たしているのが、かかと部に内蔵されている「ヒールカウンター」です。
かかとを踏むとヒールカウンターが変形し、靴内部が破れたり足を傷つける場合があります。ヒールカウンターの変形により、シューズの持つ機能を十分に発揮する事ができなくなります。

シューズを履くときは

シューズを履くときは、必ずひもを十分に緩め、足を入れてください。
靴ひもを緩めずに強引に足を入れると、かかと部分の変形や破損につながります。無意識でもかかと部の上に足を乗せてしまうことを繰り返すと、弱い圧力でもヒールカウンターが変形しますので、ご注意ください。
ヒールカウンターの変形は元に戻りません。

シューズを脱ぐときは

シューズを脱ぐときも、履くときと同様に靴ひもを十分に緩めてください。
靴ひもを解かずにシューズをかかとに引っかけて強引に脱ぐと、底がはがれシューズが破損する事があります。

靴ひもは正しく通して、適度に締めしっかり結ぶ

靴ひもはシューズと足を一体化させる重要な役割を持っています。締め方がゆるい場合は、シューズの中で足が動き、捻挫や転倒などを招く事があります。締め方がきつい場合は血流を妨げ足のむくみなどにつながります。

濡れた路面は滑りやすく、転倒の危険があります

靴底の材質やデザインにかかわらず、濡れた路面では乾いた路面よりも滑りやすくなります。雨天などで濡れた路面を歩く場合は、転倒などの危険がありますので十分にご注意ください。

◎マンホールや溝のフタ、踏切りなど樹脂や金属製の路面
◎駅やホテルに多いタイルや大理石などの平滑な路面
◎横断歩道のペイント部分
◎濡れた階段や坂道
◎油や砂などが付着している路面等々

滑りやすいところを歩くときには！

○路面の変化にご注意ください。
乾いた路面から濡れた路面への移動など、路面の変化に気づかずに足を踏み出すと、思わぬ転倒につながり大変危険です。
○急激な動作は禁物です。
滑りやすい路面上で急に立ち止まったり、急な方向転換を行ったりしたときなどは、思わぬ転倒につながり大変危険です。
また、傘や手荷物などを持っている場合は体のバランスが取りづらくなりますので、特にご注意ください。
○靴の状態にもご注意ください。
靴底がすり減っていると、本来のグリップ性が発揮できなくなります。特に雨天などで滑りやすい路面上では突然滑ることがありますので、靴底がすり減ったシューズをご使用の場合は十分ご注意ください。

濡れた路面などでの転倒にご注意ください

使用目的に合ったシューズをお選びください

特にスポーツシューズはそのスポーツの用途・特性に適した設計をしており、使用素材や構造がそれぞれ異なりますので、用途に合わせてお選びください。
なお、使用用途以外でのご使用は、製品本体の破損だけでなく不測の事故につながる恐れがありますので、転用はお避けください。
また、ルールに適合したシューズの使用を規程している競技や、施設によってはそのスポーツシューズを構造上の問題で使用を拒否される場合がありますのでご注意ください。

主な具体例

●ウォーキングシューズ・ランニングシューズなどでゴルフの素振りや練習場での打放し等をすると、底がはがれることがあります。
●ウォーキングシューズ・ランニングシューズなどでバレーボールなどの室内競技をすると、底がはがれたり体育館の床を傷める恐れがあります。
●ウォーキングシューズ・ランニングシューズなどでコンクリートのような硬い路面でキャッチボールやサッカーなどをすると、底がはがれたり甲皮が破損することがあります。
●登山やハイキングには、安全のため専用のシューズを使用してください。
●スパイク付きのシューズを目的以外の場所で使用すると、シューズを傷めるだけでなく、けがにつながることがあります。
●自転車・三輪車などでつま先を路面に擦り付けて止まる行為は、シューズの底はがれにつながります。

お手入れについて

ご使用後は、できればその日のうちに汚れをブラシや布で落とし、陰干しして湿気を取ってください。

●天然皮革（表革）の場合
シューズ用ブラシでアッパー・靴の中・ソールなどの汚れを落としてください。そして、柔らかい布で細かな汚れを拭き取ってください。
●天然皮革（起毛革・ヌバック、裏革・スエード）の場合
専用ブラシでアッパー・靴の中・ソールなどの汚れを落としてください。そして、柔らかい布で細かな汚れを拭き取ってください。最後に、専用ブラシで表面の風合いを整えてください。
●合成皮革の場合
アッパーは柔らかい布で水拭きし、靴の中・ソールはシューズ用ブラシで汚れを落としてください。
●革＋合成繊維の場合
合成繊維部分は柔らかいブラシで汚れを落とし、柔らかい布で細かな汚れを拭き取ってください。靴の中・ソールはシューズ用ブラシで汚れを落としてください。革部分については上記を参考に行ってください。

＊濡れたシューズを乾かす時は、靴の中に吸水性の良い紙（新聞紙等）を詰めて形を整えて風通しの良い場所で陰干しして自然乾燥させてください。
＊雨や水に濡れた靴を直射日光やストーブで乾かすと、変形・変質の原因になりますのでおやめください。
＊汚れのひどい時は、シューズ用洗剤（市販品）をご使用ください。
＊撥水効果を保つためには、シューズ用撥水剤（市販品）をご使用ください。
＊シューズ用ケア用品をご使用になる場合は、その取扱説明書通りに行ってください。

⚠ 色落ちにご注意

●ご使用の過程で色落ちする場合があります。
●白色やその他淡い色の衣類や靴下をご着用される場合は、シューズの色落ちや衣類等への移染にご注意ください。
●保革油や防水スプレーを使用する場合は、革・布・金属等が変色する恐れがありますのでご注意ください。

アフターサービス

●部品の紛失による補充、又は修理はお買い求めの販売店にご依頼下さい。

無償修理について

●取扱説明書通りの正常な使用にもかかわらず、欠陥が原因で故障または破損した場合はお買い上げ後１年に限り、無償で修理又はお取替え致します。本取扱説明書を添付して、お買い求めの販売店にお持ちください。

有償修理について

●次の項目は保証対象外ですので有償修理、又修理不能の場合は修理をお断りする場合がございます。

１、保証期間を過ぎたもの（保証期間は購入日より１年間とする）。
２、取扱説明書の注意書に記載された、正しい使用方法及び注意事項に反する使用で破損した場合。
３、自然災害、火災、その他不測の事故による破損。
４、経年劣化による破損。
５、使用上の不注意による破損。
６、取扱説明書が添付されない場合。
７、販売店名及びご購入日の記載がない場合。